

SIR 企業レポート

2015年8月17日

株式会社イグニス（東証マザーズ：3689）



事業内容

- ・スマートフォンを主な対象に、無料ネイティブアプリ及びネイティブソーシャルゲームの企画、開発・運営・売却事業を行っている。8社（内1社は米国、1社は韓国）の関連会社を持ち、ジャンル別の事業展開および海外展開で事業拡大を行っている。
- ・無料ネイティブアプリについては、健康管理や日常生活での利便性向上などのツール系アプリや、簡易ゲーム（カジュアルゲーム）を提供し、現在までの当社配信アプリの総ダウンロード数は87百万件に達している。
- ・2015年2月に「ぼくとドラゴン」を、当社2タイトル目のネイティブソーシャルゲームとしてリリースし、180万ダウンロードを達成。今後の収益源として期待されている。
- ・無料ネイティブアプリ事業は、競争激化の環境下で、アプリの高度化がユーザーから求められるようになり、中規模（開発期間1~3か月）や大規模（開発期間3か月超）を中心とする制作体制に転換中。一方で、ネイティブソーシャルゲームが好調であることから、課金収入獲得を強化する体制をとっている。
- ・成長の基軸を、分野・デバイスに捉われない「人と人とのコミュニケーションのツール提供」と位置付け、新たなジャンル開発にも取り組んでいる。



「ぼくとドラゴン」（ネイティブソーシャルゲーム）

の好調により、通期売上予想を上方修正

（2015年度3Qレビュー）

《概況》 2015 年度 3Q 損益

(単位：百万円)

	2015年9月期 3Q累計	2014年9月期 3Q累計		
			前年同期比	差額
売上高	1,120	1,310	△14.5%	△190
無料ネイティブアプリ	542	826	△34.4%	△283
全巻無料型ハイブリッドアプリ	34	240	△85.9%	△206
ネイティブソーシャルゲーム	543	242	+123.9%	300
営業利益	△313	350	△189.4%	△663
営業利益率	-	26.8%	-	-
経常利益	△395	344	△214.8%	△740
経常利益率	-	26.3%	-	-
当期純利益	△443	191	△331.9%	△634
純利益率	-	14.6%	-	-

KPI	2015年9月期 3Q累計	2014年9月期 3Q累計	増減
期中のリリースタイトル数(*)	39	42	△3
無料ネイティブアプリ	34	35	△1
全巻無料型ハイブリッドアプリ	4	7	△3
ネイティブソーシャルゲーム	1	0	1

3Q 累計売上高は、2Q までの無料ネイティブアプリとコミック（全巻無料型ハイブリッドアプリ）の不振から、前年対比△14.5%の1,120百万円となり、営業利益も△313百万円となっている。

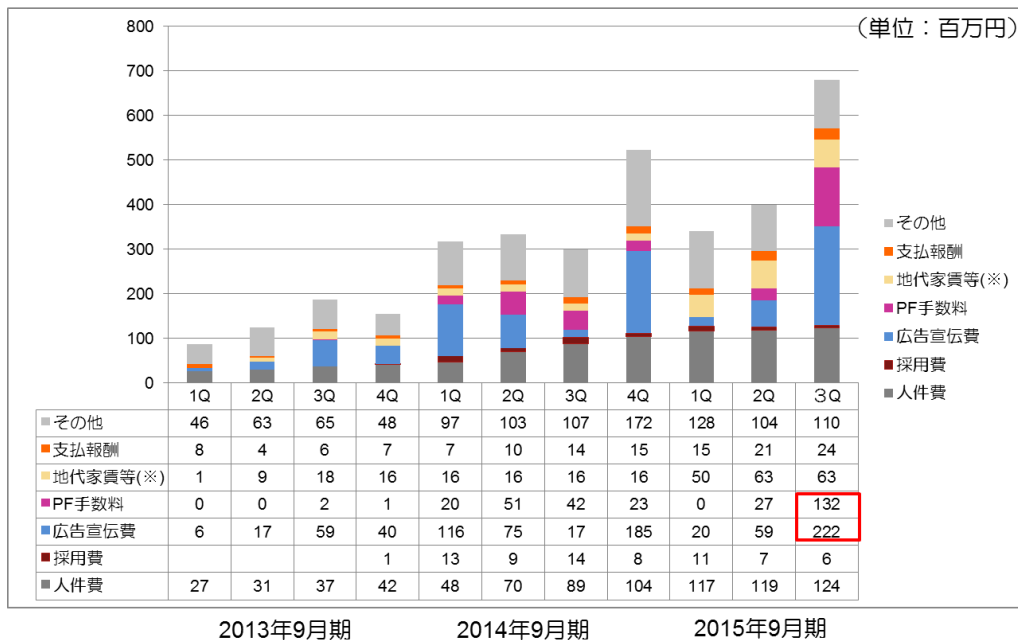
この主要因は、無料ネイティブアプリおよびコミック（全巻無料型ハイブリッドアプリ）において競争が激化し、簡易なアプリではユーザーを集めて確保することが困難になったことにより、広告収入が得にくくなったことがあげられる。

これに対し当社は、無料ネイティブアプリを従来の量産体制から、リリース本数の絞り込みと制作期間の長期化による品質強化にシフトを切る（前年比3タイトルの減少）一方、課金型事業モデルであるネイティブソーシャルゲーム「ぼくとドラゴン」をリリースし、180万ダウンロードを達成。収益構造の変革が徐々に奏功し始めているとかがえられる。

その証左として、下記に示す通り、四半期ごとの収益では3Qの売上高が際立っており、これに基づいて当社は通期予想の売上高を上方修正した。

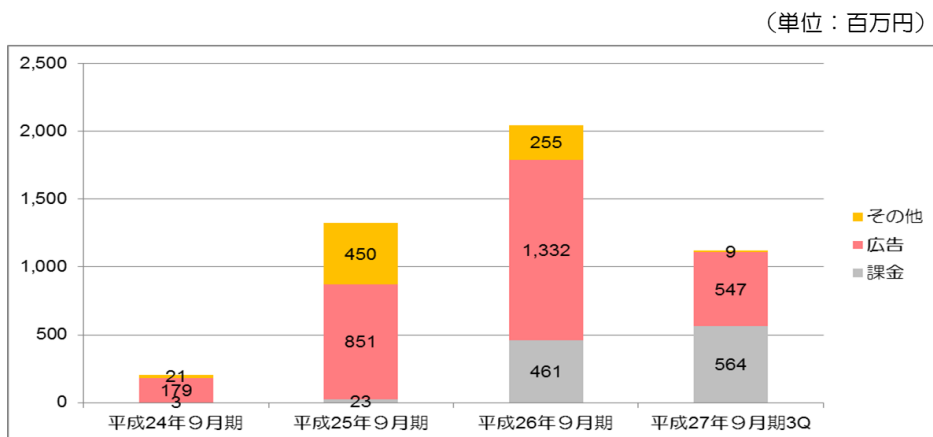
	2015年9月期				通期予想		
	1Q実績	2Q実績	3Q実績	累計実績	前回発表	修正予想	対修正予想 進捗率
売上高	243	263	613	1,120	1,700	2,000	56.0%
営業利益	△101	△140	△70	△313	△504	△504	-
経常利益	△117	△155	△122	△314	△553	△553	-
当期純利益	△89	△221	△132	△315	△582	△582	-

一方、3Qにおいて613百万円の利益があるにも関わらず、営業利益が△70百万円となっている点については、「ぼくとドラゴン」を主体とした広告宣伝費の拡大と、それによって集客されたユーザーから発生するプラットフォーム決済手数料（AppleおよびGoogleへの支払手数料）が増加したことにある。



これらは課金ビジネスに注力している当社にとって集客のために必要な先行投資として考えられ、今後集客から生まれるマネタイズが期待される。

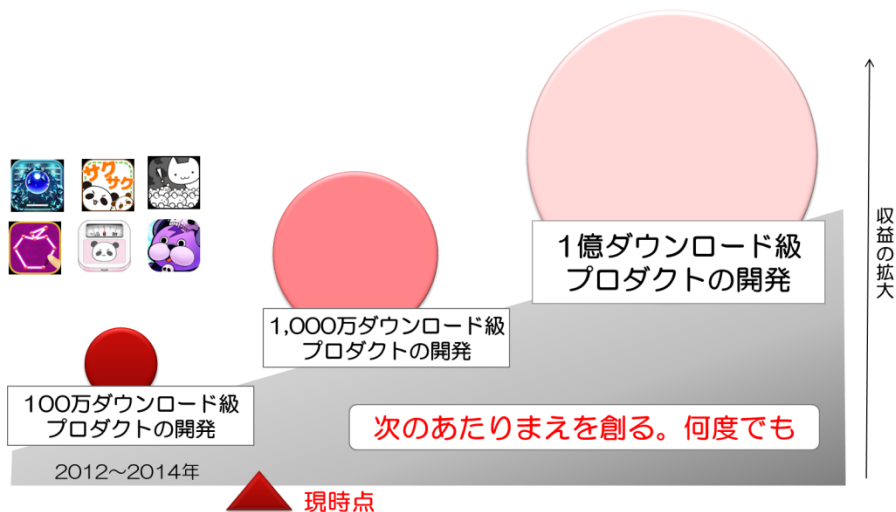
このような状況を踏まえ、当社は売上高の通期予想を上方修正したが、来期に向けて、「ぼくとドラゴン」を中心に、更なるプロモーションコストを掛ける必要があると判断し、利益予想は据え置きとしている。このような事業構造の転換は、下記に示す広告収入と課金収入の転換にも表れ始めている。



上記に示される通り、当期 3Q において既に課金収入が前期通期を上回り、今後の収益貢献が期待される。一方、広告収入は前期比で進捗率が劣っているのは事業構造の変革を行っている最中であることから、現状の収益率が低下しているものと推測される。

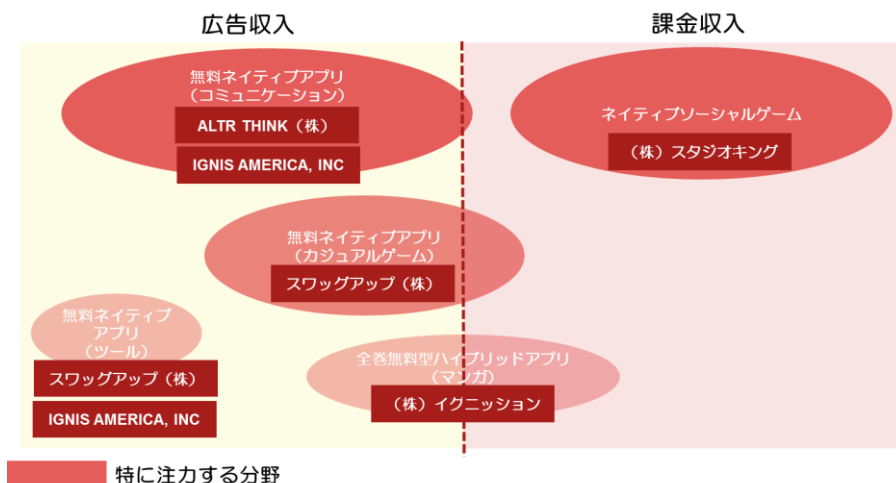
当社の目指す方向性

当社は今回の決算発表において、当社の目指す方向性を明示した。



当社は創業以来の理念である「次のあたりまえをつくる」ことをめざし、将来的には1億ダウンロードのアプリを開発することを目指している。そのために当期は事業構造改革と将来に向けて、従来広告主体であった収益構造から、課金収入も得られる収益の多様化に向けての投資期として位置付けている。

このような事業構造を確立するために、当社は今後の注力分野として以下を明示している。



無料ネイティブアプリでは、今後コミュニケーションジャンルとカジュアルゲームに注力する一方で、ネイティブソーシャルゲームを更に強化することを打ち出している。

SIR は、今後の当社の事業進捗状況を詳細にレポートしていきたい。

ストラテジック・アイアール・インサイト株式会社

代表取締役社長 関口 裕一

免責事項

- ・本レポートは、ストラテジック・アイアール・インサイト株式会社が、投資家に対して株式投資の参考資料として作成したものであり、特定の証券又は金融商品の売買の推奨、勧誘を目的としたものではありません。
- ・本レポートの記載内容は、一般に入手可能な公開情報および、弊社取材による情報に基づいて作成されたものであり、インサイダー情報の入手およびその使用は禁じられております。本レポート作成に当たり、その情報は正確かつ信頼に足るものと考えておりますが、その正確性が客観的に検証されているものではありません。
- ・本レポートに含まれる情報は、金融市場・商品市況・経済環境等の変動等の理由により最新のものでなくなる可能性があります。また、本レポート内で記載されている、現状および将来的な予測については、弊社が適切と判断した材料に基づく弊社予想であり、実際とは異なることがあります。したがって、将来の数値等について明示または黙示を問わずこれを保証するものではありません。
- ・本レポート内で示す見解は予告なしに変更されることがあり、弊社は本レポート内に含まれる情報および見解を更新する義務を負うものではありません。
- ・弊社は、投資家が本レポートを利用したことまたは本レポートに依拠したことによる、直接・間接の損失や逸失利益および損害を含むいかなる結果についても一切の責任を負うものではありません。
- ・本レポートの著作権はストラテジック・アイアール・インサイト株式会社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

ストラテジック・アイアール・インサイト株式会社